

Slovenia Monthly *May 2019*

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2019年6月21日



～5月の主なポイント～

- 内政： 欧州議会選挙の実施
- 外政： ブルドー・ブリュニ・プロセス首脳会合にパホル大統領が出席
ラブロフ・ロシア外相がスロベニアを訪問
- 経済： コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業、コンセッション契約署名
- 治安： 不法移民による誘拐事件が発生
麻疹の発症件数、昨年をすでに上回る
- 社会： 5月の平均気温、独立以降で過去最低を記録

【欧州議会選挙(5月26日)の結果】

【ポイント】

- 記録的な低投票率となった前回の2014年選挙(24.55%)に対し、今回の投票率は28.89%で過去最高を記録(2004年は28.35%, 2009年は28.37%)。一方、EU全体ではスロバキアに次いで、2番目の低投票率。
- 民主党(SDS)／人民党(SLS)が得票率1位で3議席を獲得したものの、前回より議席数1減。
- マリヤン・シャレツ・リスト(LMS)は、初の欧州議会選挙で、2議席獲得に成功。
- 社会民主党(SD)は、1議席上乗せに成功し、2議席を獲得。一方で、LMS及びSD以外の連立与野政党は議席獲得ならず。
- 一部のEU加盟国で見られた極右政党の躍進はスロベニアでは見られず。

当選者

当選者	所属
ミラン・ズヴェル(Milan Zver)	民主党(SDS)
ロマナ・トムツ(Romana Tomc)	民主党(SDS)
フランツ・ボゴビッチ(Franc Bogovič)	人民党(SLS)
ターニャ・ファヨン(Tanja Fajon)	社会民主党(SD)
ミラン・ブルグレス(Milan Brglez)	社会民主党(SD)
イレナ・ヨヴェヴァ(Irena Joveva)	マリヤン・シャレツ・リスト(LMS)
クレメン・グロシェリ(Klemen Grošelj)	マリヤン・シャレツ・リスト(LMS)
リュドミラ・ノヴァク(Ljudmila Novak)	新スロベニア(NSi)

選挙最終結果(6月7日付):選挙管理委員会公表

政党名	得票率	獲得議席数	選挙前議席数
民主党(SDS)／人民党(SLS)(中道右派)	26.25%	3	4
社会民主党(SD)(中道左派)	18.66%	2	1
マリヤン・シャレツ・リスト(LMS)(中道左派)	15.44%	2	0
新スロベニア(NSi)(中道右派)	11.12%	1	1
左派(The Left)(左派)	6.43%	0	0
年金者党(DeSUS)(中道左派)	5.67%	0	2(注)
アレンカ・ブラトゥシェク同盟(SAB)(中道左派)	4.02%	0	0
国民党(SNS)(右派)	4.01%	0	0
緑の党(Greens)(中道右派)	2.22%	0	0
祖国同盟(DOM)(極右)	1.70%	0	0
「Let's Connect」(中道左派)	1.66%	0	0
現代中央党(SMC)(中道左派)	1.62%	0	0
統一スロベニア党(ZSi)(極右)	0.68%	0	0
「Good State」党(中道左派)	0.53%	0	0
合計	—	8	8

(注)2014年欧州議会選挙で、年金者党(DeSUS)は1議席を獲得(イヴォ・ヴァイグル欧州議員が選出された)。他方、2014年欧州議会選挙において、別の政治団体(2019年現在、同団体はすでに存在していない)から出馬して当選したイゴル・ショルテス欧州議会議員が、今般の欧州議会選挙ではDeSUSの候補者として擁立されたことから、DeSUSの選挙前議席数を「2」としている。

選挙結果に対する反応

パホル大統領

欧州議会選挙に参加した全ての国民に感謝したい。EU全体における投票率が上昇したこと、そしてスロベニアでは投票率はEU平均よりも低いものではあったが、5年前の選挙より上昇したことを喜ばしく思う。新たに選出されたスロベニアの欧州議員に祝意を表す。(当選した欧州議員には)マンデートを与えてくれた国民の利益、懸念及び希望の声を代表するために全力を尽くすことを期待する。

シャレツ首相(LMS党首)

LMSはこれまで欧州議員を輩出していなかったが、政策を重視した選挙活動を行い、2議席獲得できたことを嬉しく思う。LMSが他の中道左派政党と共同リストを作成しなかったことが正しい選択であったということは、選挙結果が示している。有権者の票は、各党に適切に配分された。(今次選挙結果が)連立与党内の関係に影響を及ぼすことは無いだろう。

ヤンシャ民主党(SDS)党首

SDSとSLSは、今次欧州議会選挙で唯一共同リストを作成して選挙に臨んだ政党であり、当然ながら26%を超える得票率を得た。SDSとSLSの協力は、次の選挙、おそらく国政選挙への有益なモデルとなり得る。協力は、反対することしかできない者達に対抗するコンセプトである。

我々は、スロベニアの国益のために最大限の努力をし、また、賢明な妥協もできる人間(欧州議員)をブリュッセルに送る。



欧州議員当選者(Photo: Nik Jevšnik/STA)

政治

【内政】

●大統領府、アドバイザーを新たに任命【6日】

大統領府は、ヴラスト・ヌスドルファー (Vlasta Nussdorfer) 前オンブズマンを大統領アドバイザーに任命した旨を発表した。同氏は、主に人権、慈善活動、社会政策の分野において大統領に助言を行う予定で、アドバイザー業務は無償で行われる。ヌスドルファー氏は、これまで最高検察官を務めた経歴を有するほか、2013年から本年2月まで人権オンブズマンを務めていた。



ヌスドルファー大統領アドバイザー
(Photo: Bor Slana/STA)

●政府、環境庁長官代行を任命【30日】

スロベニア政府は、環境庁 (Environment Agency) 長官代行に、リリヤナ・コズロビッチ氏 (Ljiljana Kozlovič) を任命した。同氏は、コペルの行政機関に勤務後、2014年より国民議会議員 (現代中央党 (SMC) 所属)、2016年より政府官房長を務め、スロベニア・クロアチア間国境画定に係るタスクフォースのメンバーも務めた人物。なお、環境庁長官のポストに関しては、昨年11月、内部監査により重大な違反が見つかったとしてヨシュコ・クネズ長官が辞任していた。

【外政】

●ツェラル外相、EU加盟15周年式典に出席【1日】

ツェラル外相は、ワルシャワにおいて、2004年5月にEUに加盟した他の9か国 (キプロス、チェコ、エストニア、ハンガリー、ラトビア、リトアニア、マルタ、ポーランド、スロバキア) とともに、モラヴィエツキ・ポーランド首相主催のEU加盟15周年式典に出席した。ツェラル外相は、同式典に際し、ツイッター上で「EU加盟15周年を迎え、スロベニア人の所得は当時から30%増加し、輸出額は2倍、外国直接投資は3倍に増えた。また、EU加盟国間でも貿易額が3倍に増加した」と述べ、スロベニア国民に対して祝意を表した。

●スロベニアとオーストリア、ユネスコ無形文化遺産申請に係る共同宣言に署名【7日】

オーストリアを訪問したツェラル外相は、クナイスル・オーストリア外相との間で、リピツァナー馬の飼育の伝統をユネスコ無形文化遺産に共同で申請することを盛り込んだ共同宣言に署名した。本件ユネスコ無形文化遺産の共同申請には、スロベニアとオーストリアのほか、イタリア、クロアチア、スロバキア、ハンガリー、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ルーマニアも含まれる予定で、申請は2020年3月までに行われる見込み。会談後、クナイスル外相は、リピツァナー馬の飼育はこれら諸国を結びつけるもので、ユネスコ無形文化遺産への共同申請はヨーロッパの協力の精神が反映されたものであると述べた。また、ツェラル外相は、リピツァナー馬は知、美、活力、協力、信頼、伝統の象徴であり、ユネスコへの共同申請はそれらを全て表していると述べた。

●ブルドー・ブリュニ・プロセス首脳会合【9日】

9日、アルバニアのティラナにおいてブルドー・ブリュニ・プロセス首脳会合が開催され、スロベニアからはパホル大統領が参加した。同会合では、西バルカン諸国の欧州価値への完全な統合が欧州全体の安定にとって重要である旨が記された宣言文書が署名された。パホル大統領は、会談後の共同記者会見において、次期欧州委員会の任期中は、おそらく西バルカン諸国へのEU拡大は優先事項には含まれないだろうと述べつつ、だからこそEU加盟国にとって西バルカン地域の魅力を発信する必要があると述べた。一方、会合を共催したグラバル＝キタロビッチ・クロアチア大統領は、ブリュッセル及び現在のEU加盟国は南東欧地域に強い関心を示していないことに懸念を示し、その真空状態に必ずしも歓迎されない第3国が進出していると述べた。なお、今回のブルドー・ブリュニ・プロセス首脳会合は、本年末にスロベニアで開催される予定。



(Photo: Daniel Novakovič/STA)

●シュタインマイヤー・ドイツ大統領のスロベニア訪問【9日, 10日】

シュタインマイヤー・ドイツ大統領がスロベニアを訪問し、9日、同大統領はパホル大統領とともに「ヨーロッパの日」に際するEU加盟21か国の首脳のスープレマメントをスロベニアにおいて発表した。同スープレマメントは、スロベニアを含むEU各国の新聞に掲載されたもので、「欧州統合は、国家主義等の過激思想によって引き起こされた2つの世界大戦を経た後に得られた成果で、平和の実現に大きく貢献した。この平和と自由を当たり前のもので捉えることなく、引き続き統合された欧州に向けて積極的に取り組んでいく必要がある。そのためにも、欧州議会選挙では、そういった欧州を目指して投票してほしい」と呼びかけた。

10日、会談後の共同記者会見において、パホル大統領は、特に若者に対して欧州議会選挙で票を投じるよう呼びかけたほか、シュタインマイヤー大統領との会談では英国のEU離脱、移民問題等、欧州が抱える諸問題につき協議したと述べた。シュタインマイヤー大統領は、「将来にわたり、気候変動、移民問題、デジタル化等、新たな課題にも直面することとなる。市民を代表する議会において、強靱な欧州を共に築いてゆくことが重要である」と述べた。また、両大統領は、良好な二国間関係についても触れ、ビジネスから科学技術、文化まで幅広い分野において協力が存在するとの認識で一致した。



(Photo: Daniel Novakovič/STA)

●英国エドワード王子のスロベニア訪問【14日, 15日】

英国のエドワード王子がスロベニアを訪問し、14日、スロベニア南東部のゴルニ・スホル村において、パホル大統領とともにスロベニア・英国友好の日を祝う式典に出席した。この村では、1945年に英国軍の戦闘機が墜落した際、脱出した戦闘員が地元のパルチザンにより救助された歴史があり、パホル大統領は「両国の勇敢な人々のおかげで今日まで友好的関係を築いてこられた」と述べた。一方、エドワード王子は、「友好の日を祝う場所として、この村を選んで頂き感

謝の意を表する。将来にわたり、人々の繋がりを想起することは大切である」と述べた。なお、15日には、エドワード王子は、スロベニアでも実施されている青少年育成プログラム「英国エディンバラ公国際アワード」関連のイベントに参加したほか、ノンフォーマル教育に関する討論会等に参加した。

●ベネズエラ在住のスロベニア人支援【17日】

ツェラル外相は、国民議会外交政策委員会における質問に応え、「ベネズエラにおける治安は悪化の一途をたどっており、平和プロセスの兆しも見えない。ベネズエラに在住するスロベニア人約300人及びスロベニア出身のベネズエラ人数百人が、スロベニア政府の支援を要請している。今後、ベネズエラを兼轄する在ブラジル大使館が、ベネズエラからの出国を希望する者に対して領事手続き等の支援を行うこととなる」と述べた。

●ピカロ教育相、中国との協力覚書に署名【17日】

ピカロ教育・科学・スポーツ大臣は、中国を訪問し、ユネスコ及び中国教育部が共催する人工知能(AI)に関する国際会議に出席した。また、17日には、王志剛・中国科学技術部長と会談し、両者は、研究開発のための共同資金調達に関する覚書に署名した。スロベニア教育・科学・スポーツ省によれば、この覚書では、両国は同等の立場で協力することになっており、両国の大学等の高等教育機関及び研究所の共同出資に関する協力内容が記載されている。対象分野は、素材(マテリアル)技術、ICT、エネルギー、環境、バイオ技術と農業等。

●2020-2021EU議長国トロイカ会合の開催【22日】

22日、ドイツのベルリンにおいて、2020年後半から2021年後半にかけてEU議長国を務めるドイツ、ポルトガル、スロベニアの3か国の外務大臣会合が開催された。同会合では、EU議長国としての優先課題として、法の支配、EU情勢、対中関係、対アフリカ外交等について話し合われた。同会合に出席したツェラル外相は、「スロベニアのEU議長国アジェンダとして、循環経済及び社会に優しい欧州(social Europe)を促進したい。西バルカン諸国のEU加盟プロセスについては、スロベニアは加盟候補国が条件を満たすことを前提に、引き続きオープンドア方針を支持する」と述べた。この3か国のEU議長国計画書については、2020年春頃に最終版が完成する見込み。

●ラブロフ・ロシア外相のスロベニア訪問【29日】

29日、ラブロフ・ロシア外相がスロベニアを訪問し、ツェラル外相と会談を行った。両外相は、良好な二国間関係を確認するとともに、西バルカン情勢、テロ対

策、中東情勢、米中間の貿易摩擦等について意見交換を行った。ツェラル外相は、「スロベニアは、EU及びNATOの一員として、西バルカン地域を含む国際社会における平和と安定に貢献できるよう努めている。ロシアとも国際情勢に関する重要課題について率直な対話ができるよう協力する」と述べた。これに対し、ラブロフ外相は、西バルカン地域における未解決の問題については平和裏に政治対話を通じて解決していくべきとの見解を示した。

訪問中、ラブロフ外相は、パホル大統領、シャレツ首相とも会談を行った。パホル大統領との会談では、ウクライナ危機、西バルカン情勢等について議論を交わした。また、シャレツ首相とラブロフ外相の会談において、シャレツ首相はミンスク合意の重要性を強調し、ウクライナ東部における平和的解決を支持している旨述べた。

●欧州委による北マケドニア及びアルバニアに対するEU加盟交渉開始の勧告を歓迎【29日】

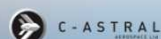
欧州委員会が、北マケドニアとアルバニアについてEU加盟交渉を始めるようEU閣僚理事会に勧告したことを受け、スロベニア外務省は、同勧告を歓迎する旨のプレスリリースを発表した。同プレスリリースによれば、スロベニアはこれまでも一貫して両国のEU加盟交渉開始を支持してきており、欧州の平和と安定、安全保障及び繁栄のためにEU拡大プロセスが維持されるよう、今回の欧州委の勧告も尊重されるべきであるとの立場。

●モンテネグロ大統領のスロベニア訪問【30日】

パホル大統領は、スロベニアを訪問中のジュカノビッチ・モンテネグロ大統領と会談し、西バルカン情勢及びモンテネグロのEU加盟努力について意見交換を行った。パホル大統領は、「今後EU拡大に対する政治的な意志の弱まりが懸念される中、EUに対して、西バルカン諸国のEU加盟が欧州の発展にとって良い機会を与えるものであると、見方を変えさせることが重要である」として、専門家の派遣を含めモンテネグロの加盟努力に対する支援を引き続き行っていく旨述べた。また、両大統領は、二国間関係に関し、特段の問題もなく良好である旨確認した。2018年の両国間貿易額は前年比6.5%増の1億1千万ユーロ、スロベニアの対モンテネグロ開発援助は124万ユーロであり、両大統領は、今後はエネルギー、インフラ、観光、農業、IT等の分野において協力していくことで一致した。

スロベニアに迫る！

Society5.0 に資するスロベニア企業 「C-Astral」



5月15日、吉田大使は、スロベニアのドローンメーカー「C-Astral」社を訪問しました。本年4月、同社は、日本企業テラドローン社の出資を受けたばかりで、両国を含む活動において、今後の事業展開が期待されています。

なお、報道によると、今回の出資に関し、同社の徳重徹社長は、「世界に向けた事業展開を考えたとき、多くの企業と協議を行ったが、特にC-Astral社のソリューションの多様性、柔軟性、そして高度な技術に感銘した。彼らのUASは、世界中の市場で求められる製品であると確信する」と述べました。これに対し、C-Astral社長は、「過去11年間でUASの開発に集中して事業展開してきた。今後は、テラドローン社と連携して、グローバルな販売活動を強化していき、R&D分野においても相乗効果に期待したい」と抱負を述べました。



●C-Astral社概要：

C-Astral社は、スロベニア西部アイドウシュチナ(Ajdovščina)市に拠点を持つ航空ソリューション企業。1999年に創業、2007年に有限会社(d.o.o.)として登録。固定翼を持つ小型無人飛行システム(UAS)における世界市場のリーダー企業であり、特に測量及びリモートセンシング分野において競争力を有する。現在の顧客は、国境管理、防火、監視作業等を行う国家機関(数カ国)及び民間企業100社以上。



●テラドローン社概要：

テラドローン株式会社は、2016年設立(本社：東京)。建設、エネルギー、石油・ガス業界等を対象とした、レーザー・写真測量技術を備えた革新的なドローンを提供。現在、アジア太平洋、EU、南アメリカに支社を有し、グローバルな事業を展開している。



(出典：STA、テラドローン社プレスリリース)

TerraDrone社HP: <https://www.terra-drone.net/>

C-Astral社HP: <https://www.c-astral.com/>

経済

【経済一般、指標・統計】

●欧州委、春季経済成長予測を発表【7日】

7日、欧州委員会は、春季経済成長予測を発表し、スロベニアは本年が3.1%、来年が2.8%のプラス成長との予測となった。これらの数値はいずれもEU及びユーロ圏の平均予測値を上回っており、EU全体の予測値は本年が1.4%、来年が1.6%、ユーロ圏については本年が1.2%、来年が1.5%のプラス成長の予測となっている。

●牛肉の生産量減少【14日】

統計局は、2018年の畜産に係るデータを発表した。それによると、牛肉生産量は44,900トンで前年比5%減、豚肉生産量は29,500トンで前年とほぼ同量となった。一方、鶏肉は70,700トン、羊肉は1,400トンでそれぞれ前年比1%増、山羊肉は400トンで、前年比24%増となった。その他、鶏卵の生産量は4億1300万個、牛乳は6億900万リットル、羊乳は60万リットル、山羊乳は170万リットルで、それぞれ前年比4%増、3%減、28%増、20%増となった。また、2018年の蜂蜜生産量は約1,700トンで前年比17%増加した。

●国際競争力ランキング、スロベニアは37位【28日】

スイスのビジネススクールIMDIは、2019年国際競争力ランキングを発表した。それによると、スロベニアは前年と順位に変動はなく、対象63か国中37位との結果となった。スロベニアは評価対象4分野中、経済状況は33位(前年29位)、政府の効率性は39位

(前年42位)、ビジネスの効率性は40位(前年47位)、インフラは27位(前年28位)だった。

なお、1位はシンガポール、2位は香港、3位は米国、4位はスイス、5位はUAEで、日本は前年より5位順位を下げた30位だった。

●政府、ムラ川近郊の水力発電所建設計画を中止【30日】

政府は、国内北東部のムラ川近郊に水力発電所を建設する計画の中止を正式決定した。閣議後、ザイツ環境・空間計画大臣は、環境に悪影響を与えない立地を見つけることは困難であると述べ、ムラ川近郊に発電所を建設しないことで連立与党内でも合意を得たと述べた。本件発電所建設を巡っては、本年1月に環境・空間計画省が、環境への懸念があり、発電所建設は実現が難しいとの見解を発表していた。なおムラ川は、ヨーロッパにおける生物多様性が高い地域のひとつであり、昨年7月にユネスコが生物圏保存地域に指定している。

【企業・産業の動向】

●Elan社、KJKファンドへの売却が完了【7日】

スポーツ用品製造「Elan」社は、同社のフィンランドのKJKファンドへの売却が完了したと発表した。KJKファンドは、「Elan社は革新的で消費者本位の企業であり、スポーツ用品分野においてグローバル・プレイヤーである。同社は、スポーツ用品メーカーのグループを構築するKJKの計画の中心的な役割を担う存在となるだろう」とのコメントを発表した。KJKスポーツグループには、Elan社のほか、エストニアのウォータースポーツ機器製造「Take Outdoors」社、ブルガリアの自転車製造「Leader 96」社も含まれている。Elan社の売却は、昨年12月に契約に署名がなされ、本年4月末にスロベニア競争保護庁による許可が下りていた。

●S&P、新リュブリャナ銀行(NLB)の格付けを引上げ【17日】

格付け会社スタンダード・プアーズ(S&P)は、新リュブリャナ銀行(NLB)の格付けをBBB-からBB+(安定的)に引き上げた。S&Pは、引上げ理由として、民営化による政府の株式所有割合の減少、スロベニアの銀行部門の産業リスクの低下及び監査の強化、同行の財務指標が堅調であること等を挙げている。

●スタートアップ・オブ・ザ・イヤー、Hurra Studios社が受賞【21日】

21日、マリボルで開催されたスタートアップに関する会議において、「Hurra Studios」社のLittle Herosプロジェクトがスロベニアのスタートアップ・オブ・ザ・イヤーを受賞した。Little Herosは、子供向けの本で、購入者は主人公の名前、性別、外見を個別にカスタ

マイズできるほか、本のストーリーを選ぶことができる。また、同社は、ギフトボックスの販売も行っており、同社の売上の25%以上がギフトボックスの販売によるもの。同社は、スロベニアに加え、すでにイタリア、オーストリア、フランス、ドイツ、米国等、外国の企業とも取引を行っており、今後、英国、カナダ、オーストラリアへの進出も計画している。

●スロベニア国鉄、新規旅客用車両調達【27日】

スロベニア国鉄は、ドイツのシュタッドラー社との間で旅客用列車26両の購入に係る1億5100万ユーロの契約に署名を行った。スロベニア国鉄は、2018年4月にも同社との間で26両の旅客用列車購入に係る契約を結んでおり、昨年より合計で52両の新規列車を購入している。スロベニア国鉄のメス社長は、新規車両購入により、最も発展した国と同様のサービスを提供できると述べた。



(Photo: <https://www.slo-zeleznice.si>)

【コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業】

●コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業、コンセッション契約署名【9日】

スロベニア政府と国営2TDK社は、コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業に係る45年のコンセッション契約に署名した。契約には、プラトゥシェク・インフラ大臣、ゾルコ2TDK社社長、ブレジガル2TDK理事が署名した。署名後、ゾルコ2TDK社社長は、本件契約により2TDK社は新たな目標を得たとして、一般の契約により2TDK社が銀行を含む第三者とのビジネス関係を結ぶことが可能になると述べた。政府は、2TDK社に対して月々のアクセス料金(Access Fee)を支払い、それが2TDK社の運営費用や建設費用として借り入れたローンの返済金の元となる由。

●EIB、2億5000万ユーロの融資を承認【15日】

欧州投資銀行(EIB)理事会は、コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業に係る2億5000万ユーロの融資を承認した。EIBは、同路線建設事業を行う国営2TDK社に対する融資承認に際し、同融資に政府保障が付与されることを主張していたが、プラトゥシェク・インフラ大臣は、政府保障付与のための関

連法案はほぼ準備が整っており、政府保障を付けることに問題ないとの見解を示していた。本件融資承認を受け、2TDK社のゾルコ社長は、EIBは地域全体に対する本件プロジェクトの重要性を認めたことになるとして歓迎する旨のコメントを発出した。

軍事・治安情勢・危険情報

●不法移民による誘拐事件【8日】

警察当局は、8日、クロアチアとの国境付近の町チェルノメリにおいて、ブドウ園で働いていた79歳の男性が不法移民のグループに誘拐される事件が発生したと発表した。被害者は、犯人グループにより手足を縛られて車のトランクに詰め込まれ、数時間後、イタリアとの国境近くの村で解放された。なお、被害者に怪我はなかった。犯人グループは、被害者を解放後、車を乗り捨てて徒歩でイタリアに渡ったが、イタリア警察により逮捕され、スロベニアに引き渡された。逮捕された犯人グループはモロッコ国籍者(1名)とアルジェリア国籍者(2名)の計3名。

ポクルカル内務相は、「このような事件が発生してしまったのは残念だが、無事解決できたことは喜ばしい。スロベニア警察は、イタリア警察との協力により犯人を逮捕することができた。警察は事態を適切に收拾している」と述べた。

●政府、クロアチアとの国境付近に軍を追加派遣【12日】

エリヤヴェツ国防相は、増加する移民による不法入国に対応する警察当局を支援するため、クロアチア国境付近に派遣するスロベニア軍を増員する旨を発表した。追加派遣されるのは35名の軍人で、国内南部のイリルスカ・ビストリツァ警察管轄区域に派遣される。なお、これまでに国境に派遣されていた31名の軍人は引き続き、国内各地の国境管理支援を行う。エリヤヴェツ国防相は、不法移民数の増加に関してポクルカル内務相と緊密に連絡をとっており、国境への更なる軍の派遣もいつでもできる状態にあると述べた。

●米国、実施中の共同軍事訓練への参加を縮小【15日】

在スロベニア米国大使館によると、米軍はスロベニア軍と現在実施中の共同訓練を縮小することを決定した。この決定は、ポストイナ近郊のポチェク訓練場における夜間訓練に対して、現地住民が反対していることを受けてなされたもので、米国大使館は、「今後は、住民との協議結果を踏まえた上でのスロベニア政府による方針の提示を待つこととするが、二国間関係は依然として強固なものであり、多くの分野において良好な協力関係にある」と述べた。

●麻疹の発症報告件数、昨年を上回る【23日】

国立公衆衛生研究所は、本年に入り、スロベニアでは12件の麻疹の発症例が報告されており、すでに昨年1年間の報告件数を超えた旨を発表した。同研究所によると、麻疹の報告件数は年々増加傾向にあり、2016年は1件、2017年は8件、2018年は9件であった。保健省によると、主な感染要因は、予防接種を受けてない旅行者が海外に渡航した際に感染するもので、本年も3名の患者が海外で感染している。なお、2018年時点でのスロベニアの麻疹予防摂取率は93.1%となっている。

社会・文化・スポーツ

●スロベニアのベスト・レストラン【7日】

7日、スロベニア・レストラン・アワード2019の式典が開催され、国内のトップ3レストランに、「ゴスティルナ・プリ・ロイゼトウ/ゼモノ城(Gostilna pri Lojzetu / Dvorac Zemono)」、「ヒシヤ・フランコ(Hiša Franko)」、「ヴィラ・ポドヴィン(Vila Podvin)」が選ばれた。また、オンラインの人気投票で最も票を獲得したのは「ヒシヤ・フランコ」であった。

●シュコツィアン洞窟群、欧州で2番目に大きい洞窟群と判明【13日】

ユネスコ世界遺産に登録されているシュコツィアン洞窟群が1819年に初めての観光客を迎えてから200年が経過したことを記念し、あらためて測量が実施された。その結果、同洞窟群の規模はこれまで考えられていたよりも大きく、ヨーロッパで2番目、世界で11番目の規模の洞窟群であることが判明した。現在、200周年を記念し、様々な式典が開催されている。



(Photo: <https://www.park-skocjanske-jame.si>)

●スロベニアのインターネット利用状況【13日】

13日、スロベニア統計局はインターネット利用率に関する統計(2018年)を発表し、16歳から74歳までの年齢層の84%がインターネットを利用した経験があり、80%がインターネットを定期的に利用していることが明らかになった。2009年時には、インターネット利用した経験がある割合は67%、定期的に利用している割合は62%であり、過去10年間でインターネット利用者の割合は増加し、特に65歳から74歳までの年齢層で定期的にインターネットを利用する割合が2009年の8%から2018年の47%に大きく増加した。

●スロベニア、欧州で最も生物多様性が高い国のひとつ【22日】

環境・空間計画省は、国際生物多様性の日に際し、国連の報告書のデータによるとスロベニアは欧州の中で動植物の多様性が最も高い国のひとつであると発表した。スロベニアでは動植物24,000種が記録されており、その内、スロベニアでしか見られない固有種は、動物800種、植物66種に上る。なお、国際生物多様性の日は、生物の多様性に関する条約(Convention on Biological Diversity)が締結された日を祝うことを目的に定められたもので、スロベニアは1996年に同条約に署名している。

●5月の平均気温、スロベニア独立以降で過去最低【29日】

環境庁は今年5月の平均気温が摂氏15度程度で、スロベニア独立以降で過去最低気温となる見込みである旨発表した。本年4月までは、平均気温が例年より高い月が13か月続いていたが、5月は記録的な低気温となり、これまでに記録されていた1991年5月の最低気温より2~3度低い由。また、日照時間は110時間~140時間程度で、本年2月及び3月と比較して半分程度であった。

●スロベニア、子供にとって安全な国リストで世界第3位【29日】

NGO「セーブ・ザ・チルドレン」が発表した最新の「End of Childhood index」において、スロベニアはフィンランド、ノルウェーと共に、子供にとって最も安全な国リストで第3位にランクインした。同指数は、教育へのアクセス、乳児死亡率、児童婚、10代の妊娠、地域紛争等の要素を基に作成されているもので、昨年のランキングでは、スロベニアはシンガポールと同率1位であった。なお、日本は、フランス及びイスラエルと同率の19位で、昨年の順位から変動はなかった。

スロベニア紀行

ドベルダン（スロベニア語で「こんにちは」）！前号で予告した通り、5月末からレース出場のため、スロベニアを訪れています。

今回は直前にあったスロベニア発の国際的イベントとスロベニアの名産である蜂蜜と養蜂について紹介します。

スロベニアでは養蜂がとても盛んで約200万人の人口のうち、8000人もの養蜂家がいるそうです。養蜂場所も盛んで個人宅の庭には養蜂のための巣箱をよく見かけます。また、首都リュブリャナでは、ビルの屋上に巣箱を設置して「Urban Honey（都会の蜂蜜）」なるものも作っています。スロベニアの蜂蜜は純度が高く、個人的には世界一の美味しさだと思っています。今回も家族をはじめ友人たちのお土産に選んだのはもちろん蜂蜜です。アカシア、リンデン、栗、松、森や花の蜜から採ったものなど本当にたくさんの種類の蜂蜜があり、人々の暮らしには欠かせないため、市場やスーパーどこでも気軽に手に入ります。



街角で見かけた養蜂の様子



（左）珍しい蜂蜜「urbani MED(スロベニア語で都会の蜂蜜)」

（右）リンデンの蜂蜜と花から採った蜂蜜。

また、毎年5月20日は「World Bee Day（世界ミツバチの日）」としてミツバチの生態系を維持し、持続可能な養蜂環境を守るために制定された記念日です。この日はスロベニアの養蜂の父と言ふべき「アントン・ヤンチャ」の誕生日でもあります。日本で蜂蜜と言ふとスロベニアの印象はまだ薄いかもかもしれませんが、スロベニアに足を運ぶ機会があれば、お土産には蜂蜜が間違いなくオススメです。たくさんあるのでぜひお気に入りを見つけてください。

さて、今回は、「Ratitovec(ラティトヴェツ)」で開催された Slovenian Mountain Running Championship(スロベニア選手権)に出場しましたが、目標には届かず28位と悔しい思いをしました。レース翌日は養蜂の街「Radovljica(ラドウルリツァ)」へ足を伸ばし、養蜂博物館を見学に行ったのですが、スロベニアの博物館は軒並み月曜が休みで見学することが出来ませんでした。次回以降に改めて足を運ぶつもりです。レースと博物館見学では残念な思いをした今回の滞在ですが、レースディレクターはじめ相変わらずスロベニアの人々は温かく、ランナー仲間との再会や嬉しい出会いもありました。



レースのフィニッシュ直前

これからも少しずつ旅で感じたことやスロベニアについて書いていきますので次号もお楽しみに！

宮地藤雄（ミヤチフジオ）

2013～18 マウンテンランニング日本代表

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●スリに注意

リュブリャナ中心部等において、スリや置き引きの被害が発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、最近では、ブレッド湖など郊外の観光地でもスリや置き引き被害が増加しています。人混みの中では荷物を体の前で持つなどご注意ください。

【広報文化班からのお知らせ】

●下記のイベントを含む最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>

●日本舞踊の公演開催！

日本舞踊の一つ、上方舞の小川流家元による公演を開催します。

・日本舞踊上方舞公演

日時:6月24日(月)20時より

場所:スロベン・グラデツ市、市庁舎前広場(住所:Šolska ulica 5, 2380 Slovenj Gradec)

* 入場無料 * 開始時間が変更になる場合があります。

●ジャパン・デー2019 開催！

日本祭、ジャパン・デーが今年も開催されます。日本の伝統文化、音楽、武道などのパフォーマンスやレクチャーなどが行われます。皆様のご来場をお待ちしております。

日時:6月22日(土)10時から17時

場所:民族博物館(Slovenian Ethnographic Museum)前広場(住所:Metelkova ulica 2, Ljubljana)

* 入場無料